

第7章 研究活動

第1節 国際学術交流

イ. 中国瀋陽薬学院との学術交流

現在の中華人民共和国は1949年（昭和24年）南京で成立し、わが国とは久しく正式国交が絶えていたが、その間残留邦人の送還や個人的交流は細々ながら続き、文化大革命が終息し正式国交回復後は急速に進展し、中国の近代化と経済解放政策とあいまって日中交流は今日の盛況をみるに至っています。地理的に比較的近い東北地区（旧満州の遼寧・吉林・黒龍江の三省）からの富山県への来訪は1980年以降相次ぎ、1984年春富山県は遼寧省との間に友好県省を富山で締結し、今年はその一周年記念式典が瀋陽で挙行されるに際し、本学からも「日中友好富山県民の翼」に参加して訪中するとともに、本学と瀋陽薬学院との学術交流に関する協定を5月10日に締結してきた。これに至った経過は、昨年5月遼寧大学の張副校長が富山大学の柳田学長と本学を表敬訪問され、佐々学長との懇談で富山大学と遼寧大学とは学術交流協定を結んだが貴校が望むなら適当な相手校を仲介するとの話が出た。6月には早速遼寧省瀋陽薬学院の蔡副院長から学長への手紙が届き、「遼寧大学の楊学長から、佐々学長先生ならびに貴校の友好的な意向を承り、これから両校の間で学術交流、人員・資料の交換などの面で絶え間なく進展することを心から望んでいる」旨の申入れがあった。その後学長と蔡副院長との間で手紙の往復があり、今年1月16・17日の両日、昨年同学院と学術交流協定を結んだ北里大学の招きで来日の途、瀋陽薬学院代表团（紀有恒院長、蔡庆参副院長、碩学裴教授、徐效勉副教授および刘璞教授）が本学を訪問、懇談会で具体的な希望や学術交流を図りたい旨が述べられた。学術交流に関する協定書の内容についてはその後各教授会において検討され3月の評議会で承認された。4月に金沢での日本薬学会総会に参加の徐副教授が本学に立ち寄り最終打合せをして準備、5月の訪中を機に実現された次第である。

瀋陽薬学院の概要は、次のとおりである。

○所在地 遼寧省瀋陽（旧奉天）市文化路

○沿革 1931年 中国工農紅軍衛生学校（江西省）調剤班—1935年長征後、陝西省北部に移り、八路軍軍医学校薬学科、次いで中国医科大学薬学科となる—

1942年 延安薬科学校

1946年 東北薬科専門学校（黒龍江省佳木斯市）

1948年 瀋陽医学院薬学部（元満州医科大学薬学部）を吸収し、東北薬学院と改称（遼寧省瀋陽市）

1955年 浙江医学院薬学系、山東医学院薬学系と合併し、瀋陽薬学院と改称（1980年6月から瀋陽薬学院は国家医薬管理総局および遼寧省に所属）

○構成系（学部）・専攻（学科）4年制

薬学系（学部）薬物製剤専攻（学科）

薬物分析専攻（学科）

中薬専攻（学科）

日本語薬学課程

教養部で日本語を学び、後はすべて日本語で講義を受ける。この課程だけが教養部3年となり、したがって卒業までの修学年数は5年となる。

製薬学系（学部）化学製薬（合成）専攻（学科）

微生物製薬（抗生物質）専攻（学科）

基礎学部（教養部）

○職員数および学生数（1980年現在）

職員数 789人

（教授2人、助教授12人）講師131人、普通教官28人、助手62人、その他554人）

学生数 1,058人

大学院生 21人

卒業生数 約7,000人

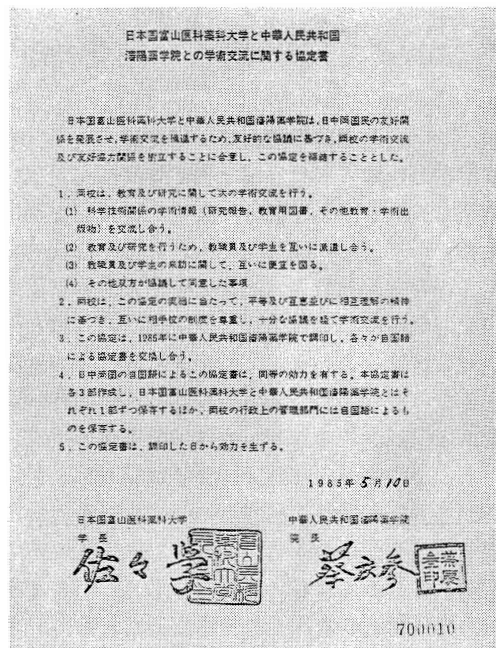
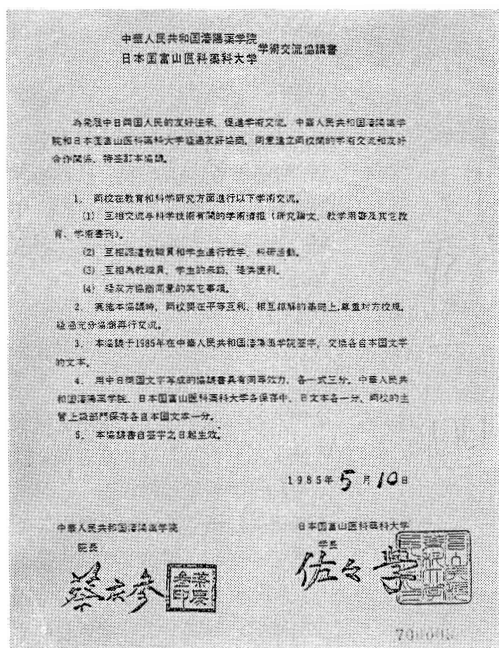
○土地・建物等

土地面積 約218,000m²

建物面積 約60,000m²

図書館 蔵書数 約16万冊

薬用植物園 1ヶ所（植物標本600種余）



製薬工場 1ヶ所

（中草药の抽出，合成薬の中間試験および大量生産を行い，注射薬，錠剤，軟膏剤の生産可能）

その他 中薬研究所，分析研究所，薬理研究所などもある。

なお，中華人民共和国にはこの瀋陽薬学院と

南京薬学院の2つの薬学院が国家医薬管理局の下にあり，国家衛生局の下で医学院にも附属薬学系（部）もある。しかし日本語薬学課程を設けているのは瀋陽薬学院だけである。

（増田克忠）



热烈欢迎 日本国富山 医科药科大 学代表团

我院召开欢迎富山医科药科大学代表团大会

增田副校长率代表团来我院访问

【本刊讯】五月十一日上午，以副校长增田克忠为团长、药学院院长崎高应副团长的日本富山医科药科大学代表团一行八人，应我院邀请前来友好访问。

八点三十分，当代表团抵达我院时，副院长蔡庆参、姜瑜，前院长纪有恒、纪有恒等领导同志走上前来，与代表团成员一一握手，对代表团来我院访问表示热烈欢迎。师生员工代表三百多人，手持花束和向日两国国旗，夹道迎接代表团，掌声、欢呼声响彻校园。

九点整，欢迎会在第二阶梯教室举行。蔡庆参副院长首先致欢迎词，增田克忠团长和院副纪有恒分别讲了话。双方共同回顾了今年一月我院代表团访问富山医科药科大学以来交往的友谊，纪有恒副院还对富山医科药科大学对我院代表团的友好接待再次表示感谢。

欢迎会后，举行了演讲会。副团长山崎、事务局长野先生分别介绍了富山医科药科大学、药学部以及和汉药研究所的情况。姜瑜、姜瑜、姜瑜教授做了“中药学防癌作用研究”、“有关抗癌”、“组织培养”的学术报告，受到师生的欢迎。

下午五时，就两校建立学术交流关系等事宜，双方在极其诚挚友好的气氛中进行了会谈，并举行签字仪式。蔡庆参副院长和增田克忠团长分别代表两校在协议书上签了字。然后，双方举杯共贺两校学术交流关系的建立。校协议有关规定，双方将交流与科学技术有关的学术情报，互相派遣教職員和学生进行教学科研活动。

代表团来院期间，还参观了院史史料馆，参观了图书馆、药用植物园、中药标本室等部门。这次来院的富山医科药科大学代表团，是随富山代表团来京访问、富山县建立友好省县一周年以来访问的。来京期间还参加了总团的一系列庆祝活动，并会见了省政府和省人大，参观了中医学、辽宁大学等单位。游览了北陵、故宫。五月十一日晨，代表团乘机离沈赴京，我院领导到机场为代表团送行。双方握手话别，共祝两校间的友好关系象那金菊花那样盛开。

富山医科药科大学是一所具有古老医药传统的学校，原系共立富山药学校（1893年私立）。一九七五年将富山大学药学部、和汉药研究所、富山大学药学院药学研究科修士课程合并，始称富山医科药科大学。

富山医科药科大学历来倡导“医药一体化”。现下设药学部、药理学部、和汉药研究所。附属医院四部分。

富山医科药科大学现有教職工1008人。师资力量雄厚，有教授62名，副教授65名，讲师35名，助教158名。在校本科生1063人，留学生、研究生144人。教学设施比较完备，图书馆有藏书10万册。设有实验动物中心、实验仪器中心、保健管理中心、运动场、游泳池等。科研成果方面，对和汉药的研究和利用上取得了较大成就。

富山医科药科大学环境优美，远山叠翠，绿树环抱，为教学科研提供了良好的环境。

各位先生、各位同学、同志们：
首先让我们热烈欢迎富山医科药科大学客人到沈！

今年一月我们到了日本，访问了富山医科大，曾受到校长佐佐木先生和今天到这里的各位先生的热情友好接待，双方都表示了愿意进行友好学术交流的意向。

这次，富山医药大代表团是随富山县代表团，由县知事冲中先生亲自带队来沈参加友好签约一周年的活动。同时，也是为了和我们学校签订学术交流协议而来的。因此，我们之间的关系更是亲上加亲，更加友好。

富山医科药科大学历来倡导“医药一体化”，正如她的美好的名字所反映的，既有医，又有药，还有和汉药研究所，办得很有活力，很有成绩，很有特色，很值得我们学习。

我相信，在今后的学术交往中，将会进一步增进我们之间的友谊和相互了解，在新的基础上共同提高。

祝沈阳药学院和富山医药大的友谊长存！

祝各位先生身体健康，在沈阳过得愉快！

谢谢！

蔡庆参副院长致欢迎词（摘要）

增田克忠副校长的讲话（摘要）

各位先生：

今天，以前院长纪有恒先生为前的沈阳药学院师生，在这里热情地欢迎我们并给我们参观的机会，我表示衷心的感谢。

辽宁省和富山县结为友好省县已经一周年了，一年来我们两省县的关系已发展到令人非常满意的阶段，为此我们非常高兴。

同时，我们两校将要建立学术交流关系，举行签字仪式，在学术、人材来往方面进行交流，这是更令人高兴的事情。

今天在这里与各位见面，真诚的希望今后与贵校合作、友好交往不断发展下去。我认为，我们在互相了解的基础上进行交流是十分重要的。

我衷心的祝愿签字以后，在我们交往不断发展的同时，贵院在科学研究方面不断地取得新的进步。

最后，祝愿你们不断进步！

祝我们的友谊一代代传下去！

谢谢各位！

（根据录音整理，未经本人审阅）

我院与富山医科药科大学签订学术交流协议



【本刊讯】五月十一日下午，我院与富山医科药科大学建立学术交流关系签字仪式在我院图书馆举行。蔡庆参副院长和增田克忠团长分别代表两校在协议书上签了字。增田克忠团长在签字后发表了简短的讲话。增田克忠团长宣读了富山医科药科大学校长佐佐木先生的祝词。祝词说：“我坚信，我们两校的学术交流及友好合作关系一百年、一千年永无止境下去。使我们的关系象金桂树一样，步步高升。”代表会后，双方互赠纪念品。代表团赠给我院一幅双喜图，象征两校间的友好关系永世长存。

沈阳药学院

SHENYANG YAOXUEYUAN

号

外

院刊编辑室

一九八五年五月十一日

ロ. 和漢薬（中薬）の医学薬学的研究に関する日中シンポジウムについて

文部省国際シンポジウム助成金による上記日中シンポジウムが富山医科薬科大学主催で、昭和60年9月1日、2日両日にわたり中国側15名を含む日中学者200名の参加を得て、県民会館特別会議室を中心に盛会裡に行われた。

8月31日中国側は胡照明団長（衛生部副部長—中国での厚生次官にあたり、中国の医科大学、薬科大学すべてを統括している）を含めた15名を空港で熱烈歓迎し、団長以下全員は会長である佐々學学長を表敬訪問された。その後主催者側の大学教官と大会議室で、中国側は胡団長の本シンポジウムの意義と中国側の熱意を表明され、わが方は大学の各部局の現況を説明し、懇談に入った。特に印象に残ったのは、中国では伝統医学を重視し、中医学院と通常の医学院は別個に独立させているが、中医と西医は医師として対等にあつかい、両学院の卒業者の中よりさらに、西医は中医学院、中医は西医学院で教育したものを中西医结合医として育てている。これは単に医療をおぎない合うといった実利的な面だけではなく、新たな第3の医学を目指すのであると中国医学の指導者の口より現在目標

としている中国医学、医療への取り組み方の基本を示され、中日友好医院などはその場となるのであるとも聞かされた。また富山医科薬科大学はその意味での学术交流のパートナーとして最もふさわしい大学である事も強調された。

翌日からのシンポジウムは、両国語同時通訳で、あらかじめ全原稿を両国語に翻訳された講演集を作っていたので討論は活発に行われ、相互理解の上きわめて役立った。内容は中医学の基礎理論より、生薬成分の化学構造より、薬理作用までおよび、また生薬またはその有効成分の新しい臨床応用もみられてきわめて広範囲にまたがる研究発表であったが、まずシンポジウムとしての成果は十分はたせたものと思っている。内容に関する詳細は講演集あるいは61年1月号の雑誌に日本語として完成させたものとして発表するので参考にさせていただきたい。

昨年5月北京で中国側と小生が接触して以来全学をあげて準備をした成果であって、組織委員長として協力をいただいた各位にこの紙面をかりて御礼を申したい。また留学生が翻訳、通訳として御助力をいただき心より感謝の意を表したい。次回はおそらく中国で行われることとなるであろう。

（熊谷 朗）

日時 1985年9月1日(日)～2日(月)

場所 富山県民会館

シンポジウムプログラム

9月1日(第1日)

開会の挨拶 富山医科薬科大学・学長
佐々 肇(Sasa Manabu)
中国衛生部副部長挨拶
胡 熙明(Hu Xi-Ming)
文部大臣挨拶
松永 光(Matsunaga Hikaru)

シンポジウム(I)代謝性疾患

座長 熊谷 朗(Kumagai Akira)
(富山医科薬科大学・副学長)
座長 金 恩源(Jin En-Yuan)
(中日友好病院・副教授)

- 1 李 庚韶(Li Geng-Shao) 北京中医学院・中医基礎理論研究所・講師
中風病の基礎理論及び臨床研究
- 2 斎藤 康(Saito Yasushi) 千葉大学医学部・第2内科・講師
高血圧と脳微小血管の代謝異常
- 3 安 邦煜(An Bang-Yu) 中医研究院・針灸研究所・副研究員
甘露消渴カプセルを用いた非インスリン依存性糖尿病102例の臨床観察
- 4 山本昌弘(Yamamoto Masahiro) 日生病院・内科部長
人参の代謝作用と糖尿病患者への臨床応用

シンポジウム(II)証の近代的研究

座長 大塚恭男(Otsuka Yasuo)
(北里研究所・東洋医学研究所・副所長)
座長 李 庚韶(Li Geng-Shao)
(北京中医学院・中医基礎理論研究所・講師)

- 5 張 雲茹(Zhang Yun-Ru) 中医研究院広安門医院・内科副主任
老年虚症の現代科学的検討
- 6 寺沢捷年(Terasawa Katsutoshi) 富山医科薬科大学・附属病院助教授・和漢診療部長
瘀血証の現代科学的研究
- 7 宮川マリ(Miyakawa Mari) 埼玉医科大学・内科・助手
証の現代科学的検討

シンポジウム(III)生物活性と臨床応用

座長 大浦彦吉(Oura Hikokichi)
(富山医科薬科大学・和漢薬研

究所・臨床利用部門・教授)

座長 陳 鴻珊(Chen Hong-Shan)

(中国医学科学院・抗菌素研究所・副研究員)

- 8 陳文為(Chen Wen-Wei) 北京中医学院・中心実験室・研究員
中医補益薬物一霊芝の生化学的薬理学的作用機序の研究
- 9 崔 文英(Cui Wen-Ying) 北京医科大学・中西医结合研究室
アイソトープ技術を用いた中医益気養血治療法則の応用研究
- 10 横沢隆子(Yokozawa Takako) 富山医科薬科大学・和漢薬研究所・臨床利用部門・助手
尿毒症に対する大黃の改善作用とその機序
- 11 江田昭英(Koda Akihide) 岐阜薬科大学・薬理学・教授
抗アレルギー剤作用を有する和漢薬の研究

9月2日(第2日)

シンポジウム(IV)感染免疫

座長 矢野三郎(Yano Saburo)
(富山医科薬科大学・医学部・第1内科学・教授)
座長 張 雲茹(Zhang Yun-Ru)
(中国研究広安門医院・内科副主任)

- 12 森沢成司(Morisawa Seiji) 大阪市立大学・医学部・第1生化学・教授
柴胡の免疫調節作用
- 13 陳 鴻珊(Chen Hong-Shan) 中国医学科学院・抗菌素研究所・副研究員
柴胡の動物体内免疫促進と抗ウイルス性肝炎作用
- 14 日野邦彦(Hino Kunihiko) 防衛医科大学校・第2内科・講師
グリチルリチンの大量投与によるB型肝炎の治療
- 15 金 恩源(Jin En-Yuan) 中日友好病院・副教授
天然牛黄及びその主要成分製剤の実験的流行性脳炎ウイルス感染に対する影響

シンポジウム(V)資源と品質

座長 難波恒雄(Namba Tsuneo)
(富山医科薬科大学・和漢薬研究所・資源開発部門・教授)
座長 顧 徳辛(Gu De-Xin)
(中国国家医薬管理局科学研究

処・処長)

- 16 金 蓉鸞 (Jin Rong-Luan) 南京薬学院・副
教授・科主任
中薬資源と品質研究の概要
- 17 谿 忠人 (Tani Tadato) 近畿大学・東洋医学
研究所・助教授
和漢薬の資源と品質に関する諸問題
シンポジウム (Ⅵ) 薬理活性
座長 木村正康 (Kimura Masayasu)
(富山医科薬科大学・薬学部・
薬剤薬理学・教授)
座長 陳 文為 (Chen Wen-Wei)
(北京中医学院・中心実験室・
研究員)
- 18 謝 斐君 (Xie Fei-Jun) 上海医薬工業研究
院・工程師
猴頭菌 [*Hericium erinaceus* (BULL.-
exFR.) PERS. ヤマブシタケ] 培養物の
薬理活性成分に関する研究
- 19 周 蘭芳 (Zhou Lan-Fang) 中国医学科学院・
薬物研究所・助理研究員
酢酸ゴンボール投与時におけるラット副辜
丸の組織化学的検討
- 20 木村郁子 (Kimura Ikuko) 富山医科薬科大
学・薬学部・薬剤薬理学・助教授
糖尿病性 neuromyopathy と生薬複合効果
の薬理学的研究

ハ. 外国人客員研究員制度

本学では、学術研究の進展に寄与するため、外国人の講師相当以上および研究業績が優れていると認められる学術研究者または学識経験者を客員研究員として受け入れ、原則として1年以内の期間を定め、共同研究を行っています。以下、10月1日現在受入れ中の諸氏を紹介いたします。

外国人客員研究員

(研究員名・国籍・職名・研究題目・研究期間・受入部局)

馬 永華 (中国)

南京中医学院科研処処長

和漢薬の作用メカニズムの研究

60. 4. 1 ~ 61. 3. 31

和漢薬研究所

徐 珞珊 (中国)

南京薬学院 生薬学教研室 副教授

金銀花の生薬学的研究

60. 8. 16 ~ 60. 10. 31

和漢薬研究所

蔺 尚斌 (中国)

四川省中薬研究所 薬理室 助理研究員

中枢神経系機能に関する分子薬理学的研究

60. 6. 1 ~ 61. 5. 31

和漢薬研究所

鄭 平東 (中国)

上海中医学院附属曙光医院 内科 講師

腎不全治療薬に関する研究

60. 4. 1 ~ 61. 3. 31

和漢薬研究所

張 宝恒 (中国)

北京医学院 基礎医学系 (薬理学)

ソフアラミンの薬理作用についての共同研究

60. 4. 9 ~ 61. 2. 4

薬学部

第2節 学会活動等一覧

各講座の学会活動を詳細に掲載することは紙面の都合上できなかった。

ここでは昭和51年4月から昭和60年9月まで

に開催された本学主催の学会等を年次別に列挙し、北陸・中部等の地方学会は割愛することとした。その一端を紹介する。

学 会 活 動 等 一 覧

学 会 等	開 催 年 月 日	開 催 場 所
第10回和漢薬シンポジウム	昭和51年8月28日～29日	富 山 市
第4回環境汚染物質とそのトキシコロジー シンポジウム（日本薬学会）	昭和52年10月6日～7日	富山県教育文化会館
第31回日本温泉科学会 “脳の統御機能の概念の確立”に関する夏のワークショップ（文部省特定研究「脳の統御機能」総括班）	昭和53年7月10日～13日	岐 阜 県 上 宝 村
第12回和漢薬シンポジウム	昭和53年8月22日～26日	富 山 県 大 山 町
第21回日本脂質生化学研究会	昭和53年9月4日～5日	富山県教育文化会館
第14回和漢薬シンポジウム	昭和54年7月21日～22日	富 山 市
第1回和漢薬研究所特別セミナー	昭和55年8月28日～29日	富山県教育文化会館
第5回神経心理学懇話会	昭和56年3月8日	富山医科薬科大学
第15回和漢薬シンポジウム	昭和56年7月18日～19日	富山商工会議所
第1回富山カンファレンス “人類遺伝学の新しい展開を求めて”	昭和56年8月18日～19日	富山県教育文化会館
第32回電気泳動学会	昭和56年8月30日～31日	富 山 市
第1回立山シンポジウム 「凝固・線溶・血小板研究」	昭和56年10月31日	富山医科薬科大学
第8回反応と合成の進歩シンポジウム（日本薬学会）	昭和56年11月1日	富山市医師会館
第2回和漢薬研究所特別セミナー	昭和56年11月9日～10日	富山県教育文化会館
第10回臨床心臓電気生理研究会	昭和57年3月14日	富山医科薬科大学
第18回日本小児腎臓病研究会	昭和57年4月17日	金 沢 市
第2回富山カンファレンス “人類遺伝学の新しい展開を求めて”	昭和57年6月17日～19日	富山県教育文化会館
第38回学術シンポジウム （日本学術会議第7部心臓血管研究連絡委員会）	昭和57年8月29日～31日	富 山 県 宇 奈 月 町
第33回日本薬理学会北部会	昭和57年9月11日	富山医科薬科大学
第3回和漢薬研究所特別セミナー	昭和57年10月17日	富 山 市
第8回植物組織培養シンポジウム	昭和58年3月13日	富山医科薬科大学
第3回富山カンファレンス “人類遺伝学の新しい展開を求めて”	昭和58年7月19日～20日	富山医科薬科大学
第17回和漢薬シンポジウム	昭和58年8月29日～9月1日	富 山 市
第4回和漢薬研究所特別セミナー	昭和58年9月9日～10日	富 山 県 民 会 館
第36回食道疾患研究会	昭和59年3月18日	富山医科薬科大学
第12回日本小児神経外科学研究会	昭和59年5月17日～18日	富山県教育文化会館
第25回社会医学研究会	昭和59年5月23日～25日	富 山 県 民 会 館
血管外科シンポジウム'84	昭和59年7月28日～29日	富 山 市
第1回和漢医薬学会	昭和59年8月18日	石 川 県 加 賀 市
第43回日本平衡神経科学会	昭和59年9月7日～8日	富 山 県 民 会 館
平衡神経科領域におけるコンピュータ処理研究会	昭和59年9月21日～23日	富 山 県 民 会 館
	昭和59年9月23日	富 山 県 民 会 館

第29回日本人類遺伝学会	昭和59年11月14日～16日	富山県民会館
第4回富山カンファレンス	昭和59年11月16日～18日	富山県大山町
“生命工学の新しい展開を求めて”		
第5回和漢薬研究所特別セミナー	昭和60年3月17日	富山医科薬科大学
第9回臨床遺伝研究会	昭和60年6月14日～15日	富山市公会堂
第15回心臓の力学と制御に関する研究会	昭和60年6月22日	富山医科薬科大学